

特定非営利活動法人 讃岐京極会 定款

第1章 総則

(名称)

第1条 この法人は、特定非営利活動法人 **讃岐京極会** と称する。

(事務所)

第2条 この法人は、主たる事務所を香川県丸亀市南条町11番地に置く。

2 この法人は前項の他、従たる事務所を香川県丸亀市土器町東七丁目606番地に置く。

第2章 目的及び事業

(目的)

第3条 この法人は、佐々木京極氏の遺した功績を顕彰し、京極旧丸亀藩及び旧多度津藩の地域内外で活躍する京極家関係諸団体が相互に連携して、その地域の伝統と文化を探求し、その成果を広く発表することで、その地域活性化の端緒を発見し、その具体的方策を関係自治体に提供する等により、その地域経済の発展に寄与することを目的とする。

(特定非営利活動の種類)

第4条 この法人は、前条の目的を達成するため、次の種類の特定非営利活動を行う。

- (1) 社会教育の推進を図る活動
- (2) まちづくりの推進を図る活動
- (3) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (4) 環境の保全を図る活動
- (5) 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- (6) 国際協力の活動
- (7) 子どもの健全育成を図る活動
- (8) 科学技術の振興を図る活動
- (9) 経済活動の活性化を図る活動
- (10) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

(事業)

第5条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 特定非営利活動に係わる事業
 - ① 歴代藩主、殊に京極高朗公の遺徳を顕彰する事業
 - ② 偉人・賢人を発掘・紹介する事業
 - ③ 杜と川と潟を保全する事業
 - ④ 災害に強い町づくりを支援する事業
 - ⑤ 国内外の友好諸団体との親善交歓の事業
 - ⑥ 前各項に掲げる、その余の事業
- (2) その他の事業
 - ① 物産品の輸出入と販売の事業
 - ② フリーマーケットの事業

- 2 前項第2号に掲げる事業は、同項第1号に掲げる事業に支障がない限り行い、その収益は同項第1号に掲げる事業に充てる。

第3章 会員

(種別)

第6条 この法人の会員は、次の2種とし、正会員をもって特定非営利活動促進法（以下「法」という。）上の社員とする。

- | | |
|----------|--------------------------|
| (1) 正会員 | この法人の目的に賛同して入会した個人及び団体 |
| (2) 賛助会員 | この法人の目的に賛同して入会した正会員以外の会員 |

(入会)

第7条 この法人の会員として入会しようとする者は、会長が別に定める入会申込書により、会長に申し込むものとし、会長は、正当な理由がない限り、入会を認めなければならない。

- 2 会長は、前項の者の入会を認めないときは、速やかに、理由を附した書面又は FAX 及び E メールをもって、本人にその旨を通知しなければならない。

(入会金及び会費)

第8条 会員は、理事会において定める入会金および会費を納入しなければならない。

(会員の資格の喪失)

第9条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 退会届を提出したとき。
- (2) 本人が死亡し、又は会員である団体が消滅したとき。
- (3) 継続して1年以上会費を滞納したとき。
- (4) 除名されたとき。

(退会)

第10条 会員は、会長が別に定める退会届を会長に提出して、任意に退会することができる。

(除名)

第11条 会員が次の各号の一に該当するに至ったときは、理事会の議決により、これを除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この定款等に違反したとき。
- (2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

(抛出金品の不返還)

第12条 既納の入会金、会費及びその他の抛出金品は、返還しない。但し、理事会に於いて返還することが相当と認める場合はこの限りではない。

第4章 役員及び職員

(種別及び定数)

第13条 この法人に次の役員を置く。

- (1) 理事 17人

(2) 監事 3人

- 2 理事のうち,1人を会長,2人を副会長とする。
- 3 会長は理事会の議決を経て,常務理事を1人置くことができる。

(選任等)

第14条 理事及び監事は,総会において選任する。

- 2 総会が招集されるまでの間において,補欠又は増員のため理事又は監事を緊急に選任する必要があるときは,前項の規定にかかわらず,理事会の議決により,これを選任することができる。この場合においては,当該理事会開催後の最初に開催する総会において承認を受けなければならない。
- 3 会長及び副会長は,理事の互選とする。
- 4 監事は,理事又はこの法人の職員を兼ねることができない。

(職務)

第15条 会長は,この法人を代表し,その業務を統括する。

- 2 副会長は,会長を補佐し,会長に事故あるとき又は会長が欠けたときは,会長があらかじめ指定した順序に従ってその職務を代行する。
- 3 理事は理事会を構成し,この定款の定め及び理事会の議決に基づき,この法人の業務を執行する。
- 4 監事は,次に掲げる業務を行う。
 - (1) 理事の業務執行の状況を監査すること。
 - (2) この法人の財産の状況を監査すること。
 - (3) 前2号の規定による監査の結果,この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があることを発見した場合には,これを総会又は所轄庁に報告すること。
 - (4) 前号の報告をするため必要がある場合には,総会を招集すること。
 - (5) 理事の業務執行の状況又はこの法人の財産の状態について,理事に意見を述べ,若しくは理事会の招集を請求すること。

(任期等)

第16条 役員任期は,2年とする。ただし,再任を妨げない。

- 2 補欠のため,又は増員によって就任した役員任期は,それぞれの前任者又は現任者の任期の残存期間とする。
- 3 役員は,辞任又は任期満了後においても,後任者が就任するまでは,その職務を行わなければならない。
- 4 第1項及び第2項の規定に拘らず,後任の役員が選任されていない場合は,その役員任期満了後,最初の総会が終結するまでの間,その任期を伸張する。

(欠員補充)

第17条 理事又は監事のうち,その定数の3分の1を超える者が欠けたときは,遅滞なくこれを補充しなければならない。

(解任)

第18条 役員が次の各号の一に該当するに至ったときは,理事は理事会において理事総数の過半数の議決により,監事は総会の議決により,これを解任することができる。この場合,その役員に対し,議決する前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えないと認められるとき。
- (2) 職務上の義務違反その他役員としてふさわしくない行為があったとき。

(報酬等)

- 第 19 条 役員の報酬については、理事会で定める。
- 2 役員には、その職務を執行するために要した費用を弁償することができる。

(職員)

- 第 20 条 この法人に、事務局長その他の職員を置くことができる。
- 2 職員は、会長が任免する。

第 5 章 総会

(種別)

- 第 21 条 この法人の総会は、通常総会及び臨時総会の 2 種とする。

(構成)

- 第 22 条 総会は正会員をもって構成する。

(権能)

- 第 23 条 総会は、以下の事項について議決する。
- (1) 定款の変更
 - (2) 法人の解散
 - (3) 法人の合併
 - (4) 事業報告及び収支決算の承認
 - (5) 役員の選任、職務及び監事の解任
 - (6) その他理事会が総会に付議すべき事項として議決した事項

(開催)

- 第 24 条 通常総会は、年 1 回開催する。
- 2 臨時総会は次の各号の一に該当する場合に開催する。
 - (1) 理事会が必要と認め、招集の請求をしたとき。
 - (2) 正会員総数の 5 分の 1 以上から会議の目的である事項を記載した書面をもって招集の請求があったとき。
 - (3) 第 15 条第 4 項第 4 号の規定により、監事から招集があったとき。

(招集)

- 第 25 条 総会は、前条第 2 項第 3 号の場合を除き、会長が招集する。
- 2 会長は、前条第 2 項第 1 号及び第 2 号の規定による請求があったときは、その日から 10 日以内に臨時総会を招集しなければならない。
 - 3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は FAX 及び E メール若しくは当該法人機関誌で、総会開催日の少なくとも 5 日前までに通知しなければならない。

(議長)

- 第 26 条 総会の議長は、その総会において、出席した正会員の中から選出する。

(定足数)

第 27 条 総会は、正会員総数の 3 分の 1 以上の出席がなければ開催することができない。

(議決)

第 28 条 総会における決議事項は、第 25 条第 3 項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。ただし、議事が緊急を要するもので、出席した正会員の 3 分の 1 以上の同意がある場合は、この限りではない。

- 2 総会の議事は、この定款に規定するものの他、出席した正会員の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長が決する。

(表決権等)

第 29 条 各正会員の表決権は、平等とする。

- 2 やむを得ない理由のため総会に出席できない会員は、あらかじめ通知された事項について、書面をもって表決し、又は他の正会員を代理人として表決を委任することができる。
- 3 前項の規定により表決した正会員は、第 27 条、第 28 条第 2 項、第 30 条第 1 項第 2 号及び第 51 条の適用については、総会に出席したものとみなす。
- 4 総会の議決について、特別の利害関係を有する正会員は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第 30 条 総会の議事録については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 正会員総数及び出席者数（書面表決者又は表決委任者がある場合にあっては、その数を付記すること。）
- (3) 審議事項
- (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人 2 人以上が署名、押印しなければならない。

第 6 章 理事会

(構成)

第 31 条 理事会は、理事をもって構成する。

- 2 監事は理事会に出席し、意見を述べることができる。

(権能)

第 32 条 理事会は、この定款で定めるものの他、次の事項を議決する。

- (1) 事業計画及び収支予算並びにその変更
- (2) 事業報告及び収支決算
- (3) 役員の報酬及び理事の解任
- (4) 入会金及び年会費の額
- (5) 借入金（その事業年度の収入をもって償還する短期借入金を除く。第 50 条において同じ。）
- (6) 事務局の組織及び運営
- (7) その他運営に関して必要な事項

(開催)

第 33 条 理事会は、次の各号の一に該当する場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めたとき。
- (2) 理事総数の 3 分の 1 以上から会議の目的である事項を記載した書面又は FAX 及び E メールをもって招集の請求があったとき。
- (3) 第 15 条第 4 項第 5 号の規定により、監事から招集の請求があったとき。

(招集)

第 34 条 理事会は、会長が招集する。

- 2 会長は、前条第 2 号及び第 3 号の規定による請求があったときは、その日から 10 日以内に理事会を招集しなければならない。
- 3 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的及び審議事項を記載した書面又は FAX 及び E メールをもって、少なくとも 5 日前までに通知しなければならない。

(議長)

第 35 条 理事会の議長は、会長若しくは会長が指名した者がこれにあたる。

(議決)

第 36 条 理事会における議決事項は、第 34 条第 3 項の規定によってあらかじめ通知した事項とする。但し、議事が緊急を要するもので、出席した理事の 3 分の 1 以上の同意があった場合は、この限りではない。

- 2 理事会の議事は、理事総数の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長が決する。

(表決権等)

第 37 条 各理事の表決権は、平等なものとする。

- 2 やむを得ない理由のため理事会に出席できない理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。
- 3 前項の規定により表決した理事は、前条第 2 項及び次条第 1 項第 2 号の適用については、理事会に出席したものとみなす。
- 4 理事会の議決について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。

(議事録)

第 38 条 理事会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
 - (2) 理事総数、出席者数及び出席者氏名（書面表決者にあつては、その旨を付記すること。）
 - (3) 審議事項
 - (4) 議事の経過の概要及び議決の結果
 - (5) 議事録署名人の選任に関する事項
- 2 議事録には、議長及びその会議において選任された議事録署名人 2 人以上が署名、押印しなければならない。

第 7 章 資産及び会計

(資産の構成)

第 39 条 この法人の資産は、次の各号に掲げるものをもって構成する。

- (1) 設立当初の財産目録に記載された資産
- (2) 入会金及び会費
- (3) 寄付金品
- (4) 財産から生じる収入
- (5) 事業に伴う収入
- (6) その他の収入

(資産の区分)

第 40 条 この法人の資産は、これを分けて、特定非営利活動に係る事業に関する資産とその他の事業に関する資産の 2 種とする。

(資産の管理)

第 41 条 この法人の資産は、会長が管理し、その方法は、理事会の議決を経て、会長が別に定める。

(会計の原則)

第 42 条 この法人の会計は、法第 27 条各号に掲げる原則に従って行う。

(会計の区分)

第 43 条 この法人の会計は、これを分けて、特定非営利活動に係る事業に関する会計とその他の事業に関する会計の 2 種とする。

(事業計画及び予算)

第 44 条 この法人の事業計画及びこれに伴う収支予算は、会長が作成し、理事会の議決を経なければならない。

(暫定予算)

第 45 条 前条の規定にかかわらず、やむを得ない理由により予算が成立しないときは、会長は、予算成立の日まで前事業年度の予算に準じ収入支出することができる。

- 2 前項の収入支出は、新たに成立した予算の収入支出とみなす。

(予備費の設定及び使用)

第 46 条 予算超過又は予算外の支出に充てるため、予算中に予備費を設けることができる。

- 2 予備費を使用するときは、理事会の議決を経なければならない。

(予算の追加及び更正)

第 47 条 予算議決後にやむを得ない事由が生じたときは、理事会の議決を経て、既定予算の追加または更正をすることができる。

- 2 予算の追加又は更正を行った場合は、当該事業年度終了後の通常総会に報告するものとする。

(事業報告及び決算)

第 48 条 この法人の事業報告書、収支計算書、貸借対照表及び財産目録等の決算に関する書類は、毎事業年度終了後、速やかに、会長が作成し、監事の監査を受け、理事会の

議決を経たうえで、当該事業年度終了後の最初の通常総会の承認を得なければならない。

2 会計の決算上、剰余金を生じたときは、次事業年度に繰り越す。

(事業年度)

第 49 条 この法人の事業年度は毎年 9 月 1 日に始まり翌年 8 月 31 日に終わる。

(臨機の措置)

第 50 条 予算をもって定めるもののほか、借入金の借入れその他、新たな義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事会の議決を経なければならない。

第 8 章 定款の変更、解散及び合併

(定款の変更)

第 51 条 この法人が定款を変更しようとするときは、総会に出席した正会員の過半数の議決を経て、法第 25 条第 3 項に規定する軽微な事項を除いて所轄庁の認証を得なければならない。

(解散)

第 52 条 この法人は、次に掲げる事由により解散する。

- (1) 総会の決議
- (2) 目的とする特定非営利活動に係る事業の成功の不能
- (3) 正会員の欠乏
- (4) 合併
- (5) 破産手続き開始の決定
- (6) 所轄庁による設立認証の取消

2 前項第 1 号の事由によりこの法人が解散するときは、正会員総数の 4 分の 3 以上の承認を得なければならない。

3 第 1 項第 2 号の事由により解散するときは、所轄庁の認定を得なければならない。

(残余財産の帰属)

第 53 条 この法人が解散（合併又は破産による解散を除く。）したときに残存する財産は、法第 11 条第 3 項に掲げる者のうち、総会において出席した正会員の過半数の議決を経て選定される団体に譲渡するものとする。

(合併)

第 54 条 この法人が合併しようとするときは、総会において正会員総数の 4 分の 3 以上の議決を経て、所轄庁の認証を得なければならない。

第 9 章 公告の方法

(公告の方法)

第 55 条 この法人の広告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。

第 10 章 雑則

(雑則)

第 56 条 この定款の施行について必要な細則は、理事会の議決を経て、会長がこれを定める。

附則

- 1 この定款は、この法人の成立の日から施行する。
- 2 この法人の設立当初の役員は、次に掲げる者とする。

会長	片山圭之
副会長	白井知之，加地善一，
理事	大西伯治，常包英一，原田義郎，都築 毅，太田 繁，村上 知，春木 旭， 山田茂実，児玉 豊，黒木寛恕，磯野英則，横田 寛，松本昭雄， 河津 學
監事	村上治子，山神美智子，和泉四郎
- 3 この法人の設立当初の役員の任期は、第 16 条第 1 項の規定にかかわらず、成立の日から平成 24 年 8 月 31 日までとする。
- 4 この法人の設立当初の事業計画及び収支予算は、第 44 条の規定にかかわらず、設立総会で定める。
- 5 この法人の設立当初の事業年度は、第 49 条の規定にかかわらず、成立の日から平成 23 年 8 月 31 日までとする。
- 6 この法人の設立当初のその他の会員は賛助会員とし、入会金及び会費は、第 8 条の規定にかかわらず、次に掲げる金額とする。

(1) 正会員（個人）	入会金：5,000 円	年会費：3,000 円
(2) 正会員（団体）	入会金：10,000 円	年会費：5,000 円
(3) 賛助会員（個人）	入会金：5,000 円	年会費：1 口・5,000 円
(4) 賛助会員（団体）	入会金：10,000 円	年会費：1 口・10,000 円

(以下余白)